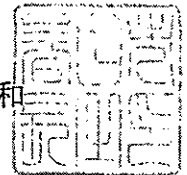


平成20年10月14日

福岡県春日市長 井上 澄和



பி

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のあった標記のことについて、別紙のとおり回答します。

TEL092-584-1111(内線 3 1 0 2)

国は、「国土の均衡な発展」を目標として掲げてありますが、その成果を整備率・改良率等の指数でとらえる傾向があります。道路行政一般についても、大都市圏、都市近郊、そして過疎地域とそれぞれの地域で道路に対する要求、期待、価値観に違いがあると思われます。それぞれの地域特性を生かした道造りこそ重要と思われます。そこで国土の地域性に応じた発展に委ねる道路行政への転換を行うべきと考えます。また要望といたしまして地方道路整備臨時交付金のような地方のニーズに弾力的に応えられる仕組みを今後も維持し、特に、未整備の幹線道路を早期に、確実に完了できるようこの制度の維持をお願いします。

○現状

今日の社会現象である団塊世代の大量退職、少子高齢化社会等の到来により、生活様式の多様化や利便性を求める人々の大都市圏(周辺地域)への集中化により、今後道路に対する需要は一層高まってくると予想されます。

○課題

そのため今、まさに都市圏やその周辺部での道路予算の投資が重要となります。

特に、福岡都市圏は道路事情が悪い中で横軸の福岡外環状線道路への縦軸のアクセス道路整備こそが急務であります。

また、春日市東部と大野城市のほぼ中央部を南北に縦断する西鉄天神大牟田線は、都市計画道路(2路線)を含め各道路と平面交差(12箇所)していますが、近年長くなる一方の踏切遮断時間は東西交通の大きな障害となり、交通渋滞や交通事故の発生原因となっています。さらに、鉄道により市街地を東西に分断され、周辺地域の都市としての健全な発展を阻害しています。

玄関口から生活道路へ、そして補助幹線へ、さらには幹線道路へのネットワークを有機的に完成させ、道路の効率的な運営や人々の社会・経済活動の基礎となる道路網を実現し、安全で渋滞のない道路環境の整備を図ります。

また、駅周辺では交通結節機能の強化を図り、便利で利用しやすい交通体系の整備に努めます。

これらの施策を通して、人の輝きと安らぎをささえる快適でやさしいまちづくりを目指します。

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・渋滞対策	県事業の都市計画道路整備	当市においては、これに対応する県事業として都市計画道路長浜太宰府線が計画されていますが、いまだに着工の目処すら立っていない状況であり、又県事業主要地方道福岡筑紫野線も未改良のため、福岡市境において交通上のボトルネックとして終日慢性的な渋滞をひきおこしています。そのため早急に現道拡幅による4車線化、岡本交差点改良等により渋滞の緩和措置をとり、あわせて長浜太宰府線の早期整備を行い、あらためて福岡筑紫野線の整備を行うことにより、渋滞の解消を図ります。	
・渋滞対策及び駅周辺まちづくり	連続立体交差事業	連続立体交差事業の推進を図ることにより、交通渋滞の解消や、踏切での事故防止を解消します。さらに駅周辺では駅前広場や幹線道路の整備を図り交通結節点の機能強化を推進します。また市街地の一体的整備や、土地の有効利用、高度利用を促進させることで、新たな商業施設の更新を図り、安全で快適、人が集い賑わいのあるまちを実現します。	